

希望を語る

第 276 号
2024.8.1

2000 年 8 月発行

24 年の歴史を持つ患者会 “希望を語る会” ニュースレター



希望を語る会事務局：健康増進クリニック

TEL03-3237-1777 Fax03-3237-1778

www.kenkou-zoushin.com info@kenkou-zoushin.com

リボン洞戸を訪ねて

院長 水上 治

先週スタッフ 3 名と共に、岐阜県の山奥にある「リボン洞戸」クリニックを訪問しました。船戸崇史院長とは長年の付き合いで、ぜひ訪問したいとの私の希望がようやく実現しました。文字通り山に囲まれた何も無いところだからこそ、数日間宿泊して、ボーと過ごし、どう「今を生きていくか」を思索します。こだわりの木造建築、シンプルな個室、優しく素敵なスタッフが迎えてくれます。温熱療法やビタミン C 点滴なども受けられます。その日、神奈川歯科大学で出会った統合医療大学院の 5 名の教え子たちにもお会いし、旧交を温めました。ともにおいしい昼食をいただき、その後は依頼されていた私の講演、質問会などであっという間の半日でした。船戸医師は、やたらと気が合う仲間です。彼の強みは剣道や合気道の達人であること、臨済宗の座禅道場を持っていることです。妄想系の私はせめて座禅で鍛えなおさねばと思っています。

がんの人は、自分自身の自然回帰が必須です。当院が都心のオアシスになるよう、努力していくことを決心して帰京した次第です。

（船戸医師のベストセラー「がんが消えていく生き方」を是非お読みください）



リボーン洞戸を訪ねて



診察室



二人部屋



一人部屋



宿泊部屋



浴室



水上先生のお話



食堂兼談話室



随所に生けられた
素敵なお花



体に優しい食事

リボーン洞戸の皆様とお別れ



抱き合って再会を
誓う二人の院長

リボーン洞戸の窓から見える景色は一面深緑で、聞こえてくるのは蝉や鳥の声や木の葉が風に揺れる音。

Wi-Fiはないどころか玄関で携帯の電源をOFFにし3~4泊ほど過ごすそうです。

リボーンのスタッフの皆様温かい笑顔や穏やかな語りでセラピーを受ける中で「がんが出来たきっかけを知り」これから「自分らしく今をどう生きるか」を内観する為に必要な環境だと感じました。

リピーターの方々は「ただいま」「おかえりなさい」と挨拶されるそうです。

ほっとし自分を解放できる場所のリボーン洞戸。当院もそのような心と体を休める笑顔あふれる場所となるように尽力してゆきたいと思いました。



みーこねーちゃんの 絵手紙

佐藤美恵さま



せみが鳴く
みんなも泣く
平和な世界を
願って
泣く

戦争はするな
経験者の
悲痛な声
その思いを
つよくする八月

五行歌
小林美智代さま



佐藤様はH7年に脳梗塞で左半身麻痺となり、H24年より当院にて鍼治療を開始しました。元副院長の加藤医師の勧めで始めた絵手紙。もともとは右利きですが左の麻痺を克服するために、左手で描いています。

《院内セミナー》水上医師

がん・難病・健康回復の最新情報をお話した上で
皆さんを交えた意見交換を致します

8月のセミナーはお休みです
9/3 (火) 10:30~・アンチ 16:00~

曜日	治療時間	電話受付
月・火・木	9:30~16:30	9:15~16:30
金	9:30~17:00	9:15~17:00
日曜日 (月2回)	9:00~14:00	8:45~14:00
※ 日曜診療日：8/4・8/18・9/8・9/29		

★「希望を語る」は患者さまの体験談や、た特技を生かしたメッセージ、いま語りたい事、その他何でも、情報交換の場を提供させていただく冊子です。写真や原稿などございましたら是非、事務所またはスタッフまでお知らせください。お待ちしております。